

より良く生きる——出居清太郎先生の世界—— 第20回

山本博也

(1) 家業に励むこと

ある商店の若主人に会ったとき、「世のため人のためにお役に立ちたいと思います。今も社会的にいろいろな用事を与えられています。一つの身体では思うようにはまいません。どのように務めたら世のため人のためになるのでしょうか」とたずねられた。その人は、町の自治関係や学校関係など十指に余る公職を持っていた。

私はこう答えた。

——家業にはげむことです。お宅は日々の生活に欠かせない食糧を作っているのですから、その仕事に努力して立派な食糧を作るのが世のため人のためになる誠のわざです。その他のことはすべて雑用、万事やりくりでよろしい。

(2) 与えられた仕事は天職

自分の天職はなんだろうかと思いつつ、迷わず、与えられた仕事は天職だと思いつつ、笑って働くことである。

行き詰ったら働くことだ。よい言葉を出し、身体、知恵、物の無駄遣いをせず、人の喜ぶことに使いなさい。

いて引き下がっていくので、「大事なことを忘れていませんか」と言ったが、当人は何のことかわからぬ様子である。

「あなたは心と身体と物の交流は行った。ご馳走してさしあげたいという心、それを作ってここまで持ってきた身体の動き、そしてご馳走という物——たしかに三つの交流はできているが、言葉の交流を忘れているでしょう。どうぞおあがりください」という言葉を忘れているでしょう。三つの交流ができて一つ欠けていると全きものにはなりませんでしょう」と教えた。

(出居清太郎先生の言葉から)

たしかに人と人との交流を考えてみると、心、言葉、物、身体の四つの要素があります。

ただ、遠く離れていて、心を通わずだけの交流もあるかもしれない。決まった時期にお決まりの物を送り合うだけの交流もあるかもしれません。

またこの数年のように、心をかよわせ、電話や手紙で言葉をかまし、土地の物産を贈り合ったが、実際に会うことはかなわなかったということもありました。

しかしやはり、心、言葉、物、身体の四つがそろって、心あたたまる交流ができることの意義、よろこびは大きい。

人には得手不得手があつて、無口な人も出不精なひともある。そこを一步踏み出すようと、先生の言葉は後押ししてくださいっています。

発行所 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町3-11-1

修養団捧誠会 <https://www.hoseikai.or.jp>

それなりのお礼が差し出されたことでしょうか。

ここに「仕事をやる」ということの原点をみる思いがします。

現今の世相では、目立って成果をあげるような仕事(現代社会ではそれは高収入に直結します)が喧伝されています。マスコミやSNSによって、目立って成果をあげる仕事をした人がもてはやされます。

そういう風潮によって、目立って成果をあげる仕事をしなければならぬ、そうでなければ意味がないという風になんとなく思わせられて、しかし現実にはそういうわけにはいかない、というところで鬱々として、元気が出ない若者がいるとしたらたいへん残念なことです。

どういふ仕事であつても、仕事としてあるといふことは、人のため社会のためになんらかの役にたつていふこととでしよう。目立った大きな成果はあげられなくても、どういふ仕事であれ地道に、誠実に務めるところに、その人その人の幸せがあるのではないでしようか。

(3) 四つの交流

心の交流、言葉の交流、物の交流、身体の交流の四つの交流を、人の喜ぶように心がける。これを「四合わせ」(幸せ)という。

ある日、会館でテーブルに座っていると、当番の婦人が心をこめたご馳走をこしらえて私の前に持ってきた。料理を美しく盛り上げた皿を、黙って私の前に置

(出居清太郎先生の言葉から)

こどものころ聞いた唱歌を思い出しました

村の鍛冶屋

一、しばしも休まず つち打つひびき

飛び散る火花よ はしる湯玉

ふいごの風さえ 息をもつがず

仕事に精出す 村の鍛冶屋

二、あるじは名高い はたらきものよ

早起き早寝の やまい知らず

長年きたえた 自慢の腕で

打ち出す すきくわ 心こもる

テンポよく刻まれるリズムによって、

真っ赤に燃えた炉の前で、ハチマキをし

て汗だくになりながら、休むことなく鉄

を打っている鍛冶屋さんの姿がうかん

できます。その姿を見ていた近所の子ど



カワセミ 大西 恵

もたちは、仕事をするとはこういうことだと自然にわかったことでしょう。そしてのちに「勤労の尊さ」という言葉を知ることになります。

昔の村の鍛冶屋さんは、近隣の農家の農具の生産、修理をするために、なくてはならない存在でした。彼もそのことをひそかに誇りに感じ、怠ることなく腕を磨き、心をこめて仕事にあたったことでしょう。村人からは感謝の言葉とともに